

小説（日本）



コンビニ人間

村田沙耶香 著 文藝春秋 2018 年

推薦者 教員 渡邊史郎

恵子は、コンビニバイト歴１８年のベテランである。彼女はコンビニ店員であるときに「世界の歯車」になり、そのことだけが「正常な人間」である証であるように感じていた。そこに白羽という新入りが登場。彼のバイトの目的は婚活であった。恵子は白羽と……。われわれは「人間失格」ですらない。「コンビニ人間」である。

レポート課題
「×× 人間」という短篇小说を執筆しなさい。（××には自由に言葉を入れてよい）主人公の名前は「恵子」とせよ。



竹取物語

星新一（訳）角川グループパブリッシング 2008 年

推薦者 教員 渡邊史郎

「竹取物語」をSFじみていると評することは簡単だし、いろいろと空想を加えながら楽しむこともそれほど難しいことではない。それに比べてこの作品の正確な現代語訳というのは遙かに難しい。SF作家の称号という重荷を背負った星新一氏が、そんな「竹取物語」を訳したのがこの本である。

レポート課題
星氏の現代語訳について批評せよ。



銀河鉄道の夜

宮沢賢治 著 新潮社 1989 年

推薦者 教員 金澤忠信

貧しい少年ジョバンニは、銀河のお祭りの日、母のために牛乳を取りに出かけ、野原でふいに銀河鉄道に乗りこむ。すでに車室にいた親友カムパネルラとの最後の旅が始まる。死を前にして、穢れを知らない孤独な二つの魂が交差する。

レポート課題
ジョバンニは何も言えなくなることが何度もあります。物語の続きとして、ジョバンニの気持ちになって、事件の翌日、カムパネルラの父に、銀河鉄道のことについて話してあげてください。



英霊の聲

三島由紀夫 著 河出書房新社 2005 年

推薦者 教員 渡邊史郎

三島由紀夫は、ある意味、左翼よりも現在の「天皇制」に対して批判的であった。天皇は文化概念でなければならない、決して「人間」であってはならなかったのである。二十世紀の思想の一帰結としてはわからないではないのだが、果たしてそれを小説で表現できたのか。私にはどこか本質的に「ふざけている」小説のように思えるのだが、どうか。

レポート課題
「英霊の聲」を読んで、この小説の主題について自由に論じなさい。



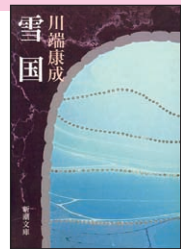
方舟さくら丸

安部公房 著 新潮社 1990 年

推薦者 教員 渡邊史郎

モグラなる青年は核シェルターをつくる。目的ははっきりしているように見えた……。そこに侵入者がやってくる。青年は足を滑らし……。晩年の安部公房が原稿用紙を捨て、日本ではじめてワープロで小説執筆を行ったと言われたのがこの作品。自分の糞を食べながら円を描いて生活する「ユープケツチャ」という虫の挿話が心に残る。

レポート課題
この小説について自由に論じなさい。



雪国

川端康成 著 新潮社 2006 年

推薦者 教員 松島充

人間の生の動きが美しい叙述にのせて描かれています。人間の持っている生きることへのおそれを突き詰め、美へと昇華させている作品です。ところどころ難解な叙述がありますが、丹念に読み込むことで、その難解さが残酷さと美へと変貌します。人間の生と言葉について深く考えさせられます。

レポート課題
人間にとっての「言葉」とは何か。この小説を参考に自由に論じなさい。



かあちゃん

重松清 著 講談社 2012 年

推薦者 副学長・図書館長 吉田秀典

各章ごとに、多様な家族における母親の姿を、主として、子供の目を通して描いておりますが、実は、各章ごとに、話は有機的に繋がっており、色んな側面から「母」を考えることができます。母親といえども、その母親にも親がおり、また、妻としての側面もあり、それが故に、時に毅然として、時に涙もろく振舞う母の姿が印象的です。人への思いやりや優しさを感じられる一冊でしょう。

レポート課題
この本を読んで、自身のお母さんについて、自分なりに思いを語ってみてください。その際に、この作品で登場する母親達との類似点、相違点なども交えて下さい。自身のお母さんについて見直す良いチャンスだと思います。



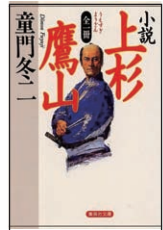
沈黙

遠藤周作 著 新潮社 2003 年

推薦者 教員 中島美登子

江戸時代のキリシタン弾圧のなか、ポルトガル司祭や隠れキリシタンである貧しい農民が神社とは何か、信仰とは何か問い苦悩する物語である。宗教とは何か、信仰とは何かということを考えさせられるだけでなく、どのような過酷な状況におかれても他者に寄り添う力を保ち続けられるのか、生きるとは何か等のさまざまな問いを考えさせられる作品である。

レポート課題
この作品が問いかける問題の中であなたが最も強く感じた点について自由に論じなさい。



小説 上杉鷹山

童門冬二 著 集英社 1996 年

推薦者 教員 三野靖

高邁な理想に燃え、優れた実践能力と人を思いやる心で、家臣や領民の信頼を集めた上杉鷹山（米沢藩主）。破滅の危機にあった藩の財政を立て直すべく、改革に乗り出す。現代の行財政改革や組織における改革の洞察力を与えてくれます。

レポート課題
「組織における改革にとって肝要なことは何か」、本書を読んだうえで、自らのこれまでの経験も踏まえて、これから社会に出るにあたっての考えを述べてください。



三四郎

夏目漱石 著 岩波書店 1990 年

推薦者 教員 神鳥成弘

熊本の高等学校（旧制）を卒業して東京大学に入学した三四郎は、広田先生をはじめ個性豊かな人々と交流するようになる。物語は大きな展開もなく平々坦々と進んでいくが、いつしか読者である自分も広田先生の家に出入りしている一書生のような気がしてくる。漱石の名文にのって、日本の明治末期という時代を感じてみてください。

レポート課題
物語は、三四郎がある言葉をつぶやいているところで終わります。その後の展開がどうなるか、自分なりに想像（創造）して、簡単な漱石風の文章にしてみましょう。興味がある方は、「三四郎」→「それから」→「門」と読み進んでみるとよいでしょう。



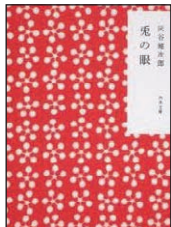
それから

夏目漱石 著 岩波書店 1989 年

推薦者 教員 山下直子

『それから』は夏目漱石の小説です。漱石の作品は教科書などで読んだことがあるとは思いますが、ぜひ一度、本を手にとってほしいと思います。この作品が新聞に連載されたのは1909年。100年前の明治の世界を想像しながら読んでください。『三四郎』『それから』『門』は三部作と言われているので、『三四郎』も読んでみてください。

レポート課題
『それから』の中で、最も印象的な場面あるいは言葉を取りあげ、なぜそれを選んだのかを述べなさい。



兎の眼

灰谷健次郎 著 角川書店 1998 年

推薦者 教員 野崎武司

灰谷健次郎は、教育界に大きな影響を与えた作家の一人です。自ら小学校の教師を経験しています。灰谷は被差別部落の諸問題を扱った数多くの作品を残しています。本書はその端緒となった文壇デビュー作品であり、たちまちミリオンセラーになりました。冒頭にグロテスクな子どもの非業が描かれます。その担任も嘔吐を覚えるほどのものです。気の遠くなるような長い関わりを経て、子どもと教師の両者が再生されるという見事な物語です。

レポート課題
(1) 学校教育が当たり前のものとして想定している子どもたちの生活世界の一般像はどのようなものか論述しなさい。
(2) 異形の生活世界を生きている子どもと、有意義な教育関係を切り結ぶために、教師が配慮しなければいけないことは何か、作品の具体的場面を取り上げながら論述しなさい。